

ヘアドライヤーによる トラブルを防ぐには



- 本体にコードを巻き付けないようにしましょう
コードの損傷により、発熱・発火などの危険があります！

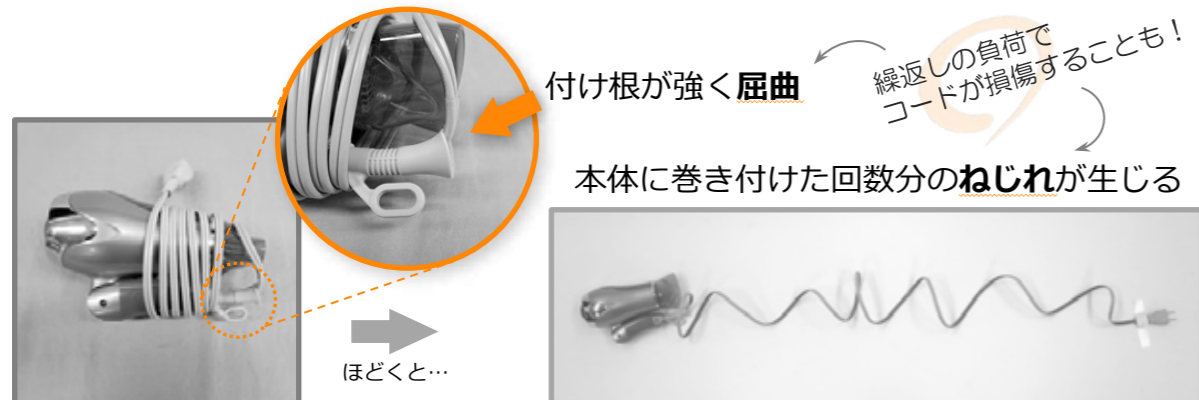


図9：ヘアドライヤーの本体にコードを巻きつけると屈曲やねじれが生じる(例)

- 異常が見られたときは使用をやめましょう

アンケート調査では、発煙・発火・火花の発生等を経験した人のうち、約7割の人がコードのねじれや発熱、使用中に動作が止まる等の異常に気付いても使用を続けていました。

- ☞ コードや動作に異常が見られたときは、ヘアドライヤーの使用をやめましょう。
- ☞ 定期的にコードや本体に異常がないか確認しましょう。

- 髪の毛を吸込口に近づけないようにしましょう

吸い込まれた髪の毛が、ファンに巻き付いて抜けなくなったり、焦げたりする場合があります。

- 取扱説明書をよく読みましょう

基本的な使い方が分かっている製品だとしても、購入した際は取扱説明書をよく読んで、注意・警告事項等を正しく理解するようにしましょう。



本内容の詳細は、独立行政法人
国民生活センター公式サイトに
掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

くらしの危険

最新号やバックナンバーは
こちらからご覧いただけます。

公式サイト「くらしの危険」コーナー

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>



●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL: 042-758-3165 ● 2017年 5月発行

イラスト：川崎 敏郎

くらしの危険

Number

337

ヘアドライヤー

コードから火花、髪の毛が吸い込まれるトラブルも

一般家庭に広く普及し、日常的に使用されているヘアドライヤーですが、PIO-NET※1には、2011～2015年度の間「ヘアドライヤー」に関する相談が毎年100件以上寄せられています。

この中には危害・危険情報※2が毎年50～70件程度含まれており、「コードの付け根から火花が出てやけどをした」、「髪の毛が吸い込まれて取れなくなり、はさみで切った」等の事例が見られました。

身近な電化製品で、基本的な使い方が分かっている製品であっても、使用や保管時の取り扱い方によっては、けがなどのトラブルが発生することがあります。

この機会にヘアドライヤーの使い方を見直してみましょう。



※1: PIO-NET(全国消費生活情報ネットワークシステム)は、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する相談情報を蓄積しているデータベースのことです。

※2:商品・役務・設備に関連して、身体にけが、病気等の疾病(危害)を受けたという情報(危害情報)と、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報(危険情報)を合わせたものです。



こんなトラブルが起きています

※ PIO-NETに寄せられた相談事例より（2011年度以降、2016年10月31日までの登録分）。
件数の内訳は、本公表のために特別に事例を精査したものです。

ヘアドライヤーに関する **危害・危険事例** 366 件
うち **発煙・発火・火花** の発生等に関するもの 305 件

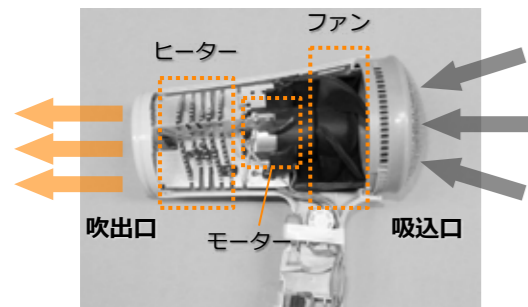


図1：標準型ヘアドライヤーの内部構造

コードからの発煙・発火等が約半数！

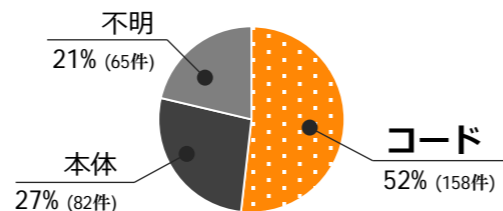


図2：発煙・発火・火花が発生する等した箇所 (n=305)

やけどを負った危害事例 … 105件

ケース 1

ヘアドライヤーを温風で使用していたところ、突然、本体に近い部分から火花が散りコードが黒く溶け断線。腕に軽いやけどをした。（受付年月 2015年8月、相談者:30歳代・女性）

ケース 2

小学校4年生の娘が、ヘアドライヤーを使用中に、本体とコードの付け根の部分がショートし、発火し、やけどをした。（受付年月 2015年2月、相談者:40歳代・男性）

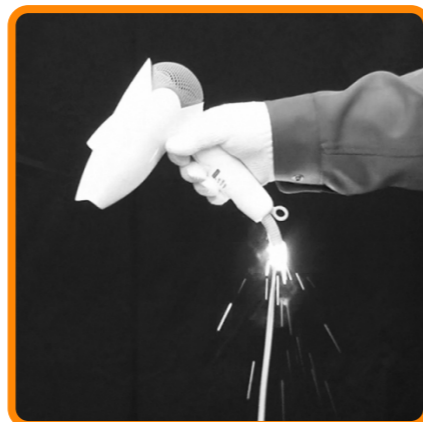


図3：損傷したコードのショートにより火花が発生する様子(再現実験)

髪の毛の吸い込みによる危害事例… 15件

ケース 3

ヘアドライヤーを使っていると、吸い込み口から40～50本本髪が吸い込まれ、巻き込まれてしまった髪を外すことができなかった。（受付年月 2015年11月、相談者:60歳代・女性）

ケース 4

1年以上前から使用中のヘアドライヤー。娘が使用中、吸い込み口に髪の毛が吸い込まれて外せなくなり動かなくなった。（受付年月 2013年5月、相談者:50歳代・男性）



図4：吸い込み口から人工毛が吸い込まれる様子（再現実験）



使用実態調査

一般消費者より使用中のヘアドライヤー47台を収集し、コードの状態を調査しました。

● コードのねじれ

47台のうち、41台にコードのねじれが見られました。中には元に戻すことが困難な強いねじれが生じていたものもありました(図5)。

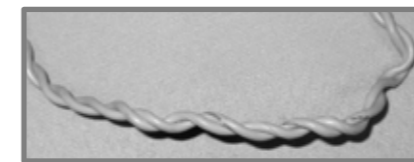


図5：コードに生じた強いねじれ(例)

● コードの損傷と発熱

X線CTにより内部の導線を調査したところ、47台のうち、4台のコードの付け根付近に損傷が見られました(図6)。

導線の損傷が最も大きかった1台を動作させたところ、開始5分後に損傷部付近の表面温度が約80度まで上昇しました。

※正常な状態のコードの5分後の表面温度は約35度でした。

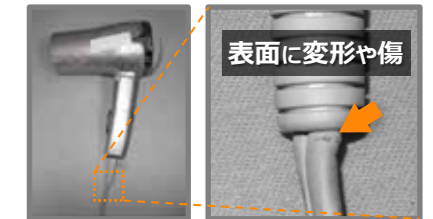


図6：導線が損傷している様子(例)



アンケート調査

●調査対象：自宅で日常的にヘアドライヤーを使用して髪の毛を乾かしたりセットしたりしている、15歳以上79歳以下の男女 ●調査期間：平成28年10月 ●実施方法：インターネット ●対象人数：男女各1,000人

● 使用しないとき 約8割がプラグを抜くと回答し そのうち約3割がコードを本体に巻き付けている

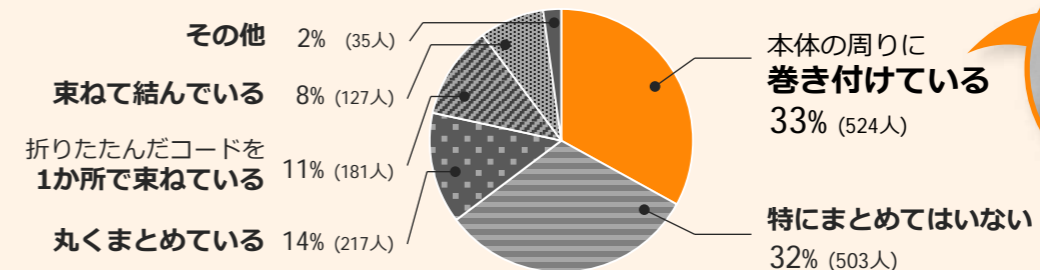


図7：使用しないときプラグを抜くと回答した人のコードの状態 (n=1,587)

● 髪の毛を吸い込まれた経験のある人のうち約半数が 髪の毛が抜けなくなった・焦げた等の被害

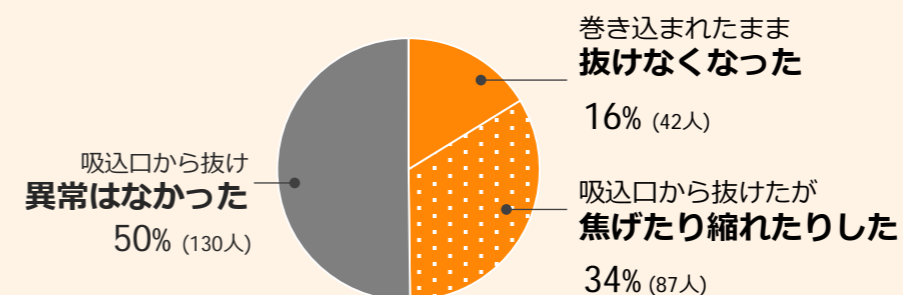


図8：髪の毛の吸い込みによる被害 (n=259)



●この調査の詳細は、独立行政法人国民生活センター公式ウェブサイトの発表情報「ヘアドライヤーの取り扱いに注意—発火、火花の発生によるやけどや、髪の毛が吸い込まれて抜けなくなることも—」で見ることができます。